

正覚寺報

発行者
浄土宗 十劫山 正覚寺
〒020-0066
岩手県盛岡市上田
2丁目5-12
TEL 019-624-5001
FAX 019-624-5003
https://m-shogakujii.com
発行
令和7年4月

会岩手県支部創立五十周年を迎えられ、この度、記念誌を発刊されました。遠増拓也岩手県知事をはじめとする方々より、祝辞の言葉が述べられ、五十年間の活動の歩み、卒業生のご活躍が紹介されております。

千代先生の写真碑が、正覚寺に建立されました経緯、堀越千代先生のご功績、御遺徳が詳述されております。

今回、このような立派な記念誌発刊にご尽力された、菊地房江支部長先生をはじめとする同窓会皆様のご功績を讃え、今後のご活躍をお祈りしております。寺に寄贈して頂いておりますので、檀家の皆様、是非お読みください。

「むら竹会」(和洋女子大学同窓会) 岩手県支部 創立50周年記念誌を発刊



堀越千代先生顕彰碑 (正覚寺)

高松の池の秘密

高松の池は、風光明媚な盛岡市民の憩いの場として、親しまれており、日本のさくら名所百選に選ばれています。この池は江戸時代に人工的に造られた池であつて、上田堤と呼ばれ、当初、上、中、下の三段階になっていました。

江戸時代、盛岡城下町を整備するにあたり、湿地となつていた上田一帯から水を抜き人の住む場所にするため、十年以上を歳月をかけて建設されたものです。正覚寺の檀家様の中にはこの工事に携わつた方々をご先祖する方々が多数おります。

今でも、沢水が流れたしており、池を経由して、正覚寺の裏の用水路に達しています。寺の池は、元々この水路と接続されていました。城下町が形成される前は、沼沢を避けて人々が往来しており、これを「大道」とい正覚寺裏の古地名です。

盛岡について、江戸後期、詳述した星川正甫の『盛岡砂子』では、事細かく語っていますが、上田堤（高松池）については、素っ気なく、「僅々水田三十石ばかりを灌溉するほか田水になることなく、何のために土工を起されたかいぶかしい」としています。

しかし公的な文書、『内史略』等の普請が記述され、時には、堤が破れ、修復工事を行った等、藩として堤を重視していた様子がうかがえます。江戸時代、堤一帯は、人家を建てて住むことは許されず、殿の狩場、「鳥

- 1661年 (寛文元年) 頃 工事着工。
- 1672年 (寛文12年) 頃 一応の工事が完成し、これにより上田、赤川、仁王方面の宅地造成が進む。
- 1673年 (延宝元年) 6月11日 上田堤決壊する。同年工事着工。溺死5人、破損家屋10余軒。
- 1810年 (文化7年) 8月 上田下堤を普請。
- 1814年 (文化11年) 2月 上田中堤を普請。
- 1815年 (文化12年) 上田中堤を普請。
- 1852年 (嘉永5年) 9月 上田三堤のうち、鳥溜、御用水兼用のところ、上台新田開発で鳥溜御用水停止となる。
- 1906年 (明治39年) 日露戦争の戦勝を記念して池の周囲に桜樹が植ええられる。
- 1999年 (平成元年) 日本のさくら名所100選に選ばれる。

溜御用水」とされ、人の出入りは厳しく制限されていました。幕末に若干緩和されましたが、一人が通れる細道しか無く、人家は無い、寂しい場所でした。今回、語りたい秘密とは、この高松の池は単なるため治水、ため池では無く、いざという時の軍事施設、という話です。南部藩にとつて最大の脅威は、北の津軽藩でした。この津軽が攻めてきたときの対策が十分に練られていました。



は北上山地と天然の要害に守られています。しかし、肝心の北が手薄です。宿縁の敵、津軽が攻め寄せるであろう北側が最も重要な防衛拠点でした。これを託されたのが、上田組町の足軽侍。自らが犠牲になつても藩を守り抜く覚悟をもつておりました。



ホームページを新設

遠方の方の檀家の皆様にも、寺を身近に感じて頂くため、活用方法など検索しております。

しかしながら、いざHPを開設し、「正覚寺」で検索しても、当方のHPにたどり着けないことがわかりました。理由は、全国に約76,000の寺院があり、同名の寺院だけでも、217カ寺、正覚寺があるからです。

その為、正覚寺で検索しても、別の正覚寺がヒットし、なかなか当寺にたどり着けないのです。ですから、HPアドレスとQRコードを載せましたので、お気に入り登録をして頂くければ幸いです。ついではFacebookも始めました。「盛岡正覚寺」です。どうぞよろしく願ひします。



<https://m-shogakujii.com>

そこで、津軽が押し寄せた時には、見計らい堤を決壊させて、津軽兵もろとも一網打尽にする作戦でした。ですから、常に上田堤（高松の池）周辺はよそ者の侵入を許さず、星川もこれを隠すため素っ気ない記述にと考えられます。戊辰戦争で南部藩が降伏すると、津軽は官軍と称して、野辺地方面から侵略してきました。野辺地で南部は津軽撃退に成功し、盛岡防衛を担う上田侍と堤の秘密は、子供の頃によく聞いた昔話です。